

# アレッサンドロ・ベヴェラリ スペシャル インタビュー



厳選！ヴィルトゥオーゾシリーズvol.4  
アレッサンドロ・ベヴェラリ  
クラリネット・リサイタル

2020年 10月10日(土) 15:00開演  
練馬文化センター 小ホール

## Q1・クラリネットを始めたきっかけを教えてください。

私のクラリネット人生は、9歳の時、私が住んでいた村のウインドオーケストラとの出会いから始まりました。ある日、私が通っていた小学校に、ウインドオーケストラがやって来てコンサートを開きました。その演奏を聴いて、私はクラリネットを演奏したいと思うようになりました。

## Q2・プロになろうと思ったきっかけは何でしょうか？

私がプロの音楽家になることを決心したのは、ある日、テレビで内田光子さんが演奏する、美しいモーツァルトのピアノ協奏曲を目にした時です。私はたちまち彼女の演奏に夢中になり、彼女のような情趣溢れる音楽家になるために、もっと音楽について学びたいと思うようになりました。また、高校生の頃に私の周りにいた旧友たちが与えてくれたたくさんのインスピレーションも、私の人間性を大きく育みました。

## Q3・母国を離れ、日本の東京フィルハーモニー交響楽団に入団することを選んだ理由は何でしょうか？

2015年、パシフィック・ミュージック・フェスティバルに参加するため、札幌市に1か月間滞在したのが、私の初来日でした。その翌年の2016年8月、東京フィルハーモニー交響楽団のオーディションに幸運にも合格することができたこともあり、オーケストラプレイヤーとして交響曲とオペラのレパートリーについて深く学び研鑽を積むために、日本に来ることを決めました。

## Q4・これまで東京フィルハーモニー交響楽団で演奏してきた中で、特に印象に残っている作品はありますか？

特に印象に残っているのは、マエストロ・チョン・ミョンフンの指揮で初めて「幻想交響曲」(ベルリオーズ)を演奏した時のことです。また、ロレンツォ・ヴィオッティ指揮による「海」と「牧神の午後への前奏曲」(ドビュッシー)、アンドレア・バッティストーニ指揮による「シェラザード」(リムスキー・コルサコフ)の演奏も印象に残っています。

## Q5・新型コロナウイルス感染症の影響で、世界中のオーケストラが活動休止を余儀なくされました。どのように過ごされましたか？

自粛期間中、私は練習を止めることはしませんでした。ジャズの即興を学び始め、さらに、日本語のオンラインレッスンを受けました。また、料理の腕前もずいぶん上達しました。特に「ボロネーゼソース」については、かなり研究しました。

## Q6・久しぶりにオーケストラ活動を再開して何を感じましたか？

オーケストラで再び演奏できるようになったことはとても嬉しかったです。しかし、なによりも素晴らしいと感じたのは、東京フィルハーモニー交響楽団の同僚たちに再会できたことです。人と人との繋がりが分断されてしまったことこそが、コロナウイルスがもたらした最も忌むべき現実だと私は思っています。

## Q7・あなたが考えるクラリネットという楽器の魅力を教えてください。

私がクラリネットについて特に魅力に感じるのは、消え入りそうなほど小さく繊細な「ピアノシモ」の音を演奏できることです。クラリネットが持つ幅広い音域は、多くの音楽ジャンル（ジャズやポピュラー音楽など）を演奏することを可能にしてくれます。

そして、クラリネットの音色は、オーケストラを始めとする様々な形態のアンサンブルにもすぐに溶け込みます。ですから、みなさんはきっとたくさんの音楽の中でクラリネットの音色を耳にしているはずです。

## Q8・今回の選曲のポイントを教えてください。

第一部では、クラリネットとピアノによるイタリア音楽を中心に、第二部ではフランス音楽をお届けしたいと思います。

コンサートの始まりは、私の母国イタリアが生んだ、世界に誇るオペラ「リゴレット」より、その美しい旋律をモチーフにした幻想曲を演奏します。

次に演奏するのは、クラシック作曲家であり、映画音楽作曲家でもあるニーノ・ロータが作曲した、オペラ的性格を併せ持つ美しいクラリネット・ソナタ。第一部の最後には、現代音楽作曲家のフランコ・ドナトーニが作曲した、クラリネットがもつ性能を最大限に活用し、高度な演奏技術が求められる「Clair(クレール)」という難曲に挑みます。

第二部は、クラリネットの歴史をひも解く上で、レパートリーとして欠かすことのできないフランス音楽を演奏します。

最初はヴァイドール作曲の「序奏とロンド」、そして次にドビュッシー作曲の「第一狂詩曲」を演奏します。どちらも、クラリネットの音色がとても美しく描写されているのが印象的な作品です。

そしてコンサートの最後は、誰もが知るオペラ「カルメン」を、クラリネットのために華やかにアレンジした「カルメンファンタジー」をお楽しみいただきます。



## Q9・最近ハマっていることを教えてください。

最近、来年出場する予定のコンクールに向けて新しい曲を練習しています。

また、2人のイタリア人作曲家が私のために現代音楽作品を書いてくれたことをきっかけに、現代音楽を学び始めました。

## Q10・クラシック以外のジャンル(日本のポップスなど)で好きな曲はありますか？

仕事や練習の後に、ジャズを聴くのが好きです。

## Q11・最後に練馬文化センターのお客様にメッセージをお願いいたします。

この半年間、今回のコンサートのプログラムについて考え続けてきました。

コンサートを通じて、美しい音色と豊かな表現力をもつクラリネットの魅力を、観客の皆様存分にお伝えしたいと思っています。

私は、2017年9月から練馬区に暮らしています。自分が“住む街”でコンサートができることは、この上ない喜びです。

このコンサートが終わっても、お越しくださった皆様そして練馬区民の皆さま、またとどこかのコンサートでお会いできることを心から楽しみにしています。



### チケット好評発売中！

チケット料金: 全席指定 ¥3,500  
練馬区文化振興協会友の会会員 ¥3,150 (2枚まで)

※学生券は半額でお求めいただけます

(他の割引サービスとの併用不可、詳しくはホームページまたはお問い合わせください)

■ 予約電話: 03-3948-9000 (10:00~17:00)

■ WEB: <https://www.neribun.or.jp> (要利用登録[無料])

■ 練馬文化センター、大泉学園ゆめりあホール窓口 (10:00~20:00)

※車いす席・難聴者イヤホンをご希望のお客様は、予約電話までお申し込みください。

※未就学児のご入場はご遠慮ください。

主催・お問合せ: (公財)練馬区文化振興協会

TEL 03-3993-3311 ☒ [info-neri@neribun.or.jp](mailto:info-neri@neribun.or.jp)

HP <https://www.neribun.or.jp/>